

館高新聞

平成26年11月20日
第343号
編集者
館林高校
新聞部

見せろの根性 雨上がりの体育祭



選手宣誓をする実行委員長の金井君

10月24日(金)体育祭が行われた。予定では23日だったが雨のため1日延期して行われた。当日は、太陽の日差しが痛いくらい晴れた。天に恵まれた。しかし、前日の雨の影響のため1時間遅れての開始となり、部活動対抗リレーや教員エキシビジョンなどの一部のプログラムがカットされることとなった。

開会式の選手宣誓では、体育祭実行委員長の金井君(3-2)と3年生2人が上半身裸となり、ユニークな宣誓を行い、開会式を盛り上げた。

最初の競技となる100m走は決勝が中止となり、予選のタイムだけで順位を決定し、三澤大地君(3-1)が1位となった。綱引きでは学年関係無く優勝を争い、2-1が優勝した。騎馬戦では東軍、西軍に分かれ熱戦激戦を繰り返し東軍の勝利となった。長縄では一年生が強さを見せ上位を独占し、103回を跳んだ1-6が優勝した。最後の競技となる、クラス対抗リレーでは、全クラスが一丸となって戦いそれぞれ1-4、2-2、3-5が1位となった。すべての競技が終わり、総合優勝は2-3となった。準優勝は3位に1年生がはいり、2年生の健闘も目立った。

雨の影響を受けた今回の体育祭だったが、男子校らしく活気の溢れる素晴らしい体育祭となった。



しく活気の溢れる素晴らしい体育祭となった。

雨にも負けず上級生にも負けず 1年生奮闘

今回の体育祭は、準優勝に1-1、第三位に1-3が入った。また、長縄跳びでは103回を跳んだ1-6が優勝、また綱引きでは1-4が4位に入るなど、好成績を残した1年生の健闘が目立った。小菅亮太くん(1-1)に、総合準優勝、ならびに学年で一位となれた理由を聞いた。「僕ら

はどの競技でも目立った成績を残すことができ、どの競技でも平均して順位が良かったこと、自分が参加していない競技でも、クラスメイトを全力で応援したりと一人一人が優勝を目指しクラス全員が一丸となって戦ったことが勝因になったと思う。」と笑顔で語ってくれた。

魅力を伝える オープンスクール

10月18日(土)オープンスクールが行われた。今回のオープンスクールは、近隣の中学3年生を対象に行われ、授業見学、体験授業、部活動見学が行われた。今回、参加してくれた中学生数名にインタビューを行った。参加した理由は「自分ちのように良い学力の高校だと思ったから」「家から近くて進学校であるから」「部活も勉強も頑張りたいから」「将来のため」などと様々であった。体験授業の感想は、「いつもの授業とは違って面白かった」「中学校とは比べものにならないくらい先生の教え方が上手い」などで、本校の先生の授業は大変好評だった。今回のオープンスクール



を通じて、館林高校を志願する生徒が一人でも多くなってくれることを期待したい。



表彰を受ける2-3の代表生徒

2位1-1 3位1-3
2-3が優勝

体育祭を制したのは、2-3だった。2位の1-1に9点差の106点をマークし、唯一となる100点越えという快挙を成し遂げた。ここで、各競技ごとの結果を見てみると、どの競技でも一位になったものはない。しかし、個人・団体

競技のそれぞれで上位に食い込み、結果として高いポイントを獲得した。球技大会では、バスケットボールの部で優勝したものの、総合優勝とはならなかったが、今回の体育祭では、その雪辱を果たし見事に総合優勝を勝ち取った。



青山学院大学で説明を受ける1年生

9月28日(金)に1年生の1日旅行が行われた。午前中は大学見学、午後は天王洲銀河劇場にて、ミュージカル「アルジャーノンに花束を」を観劇した。

見学先は、青山学院大、芝浦工業大、國學院大、東京理科大学、自分の進路希望にあわせて大学を選択した。青山学院大学を見学した生徒は、「大学の校舎はとても大きく綺麗で、感動した。図書館や体育館などの施設の充実していることに驚いた」と感想を語ってくれた。

どの大学でも、現役の大学生が大学の歴史やカリキュラムなどを踏まえながら、学校説明を行ってくれた。今回の大学見学では聞いただけでは分からない実際の大学の雰囲気や感じる事ができ、とても良い刺激となった。

午後はミュージカル「アルジャーノンに花束を」を観劇した。本作品は、8年前に主演、浦井健治さんで一度公演され、今年、復活した名作だ。生徒の中にはミュージカルを観たことのない人は多く、ほとんどの人が初めての体験であった。事前に音楽の授業でマナーや態度などの指導があったため、生徒たちはマナーを守り、ミュージカルを楽しむことができた。2幕に分かれ、約4時間という長い時間だったが、皆時間を忘れて観賞していたようだ。帰りのバスでの話もミュージカルの話で持ちきりで、各場面について語り合っていた。「楽しかった」「面白かった」「また観たい」などと満足した声が多数聞かれた。

今回の1日旅行では様々な刺激を受けて、世界が広がったような気がした。生徒たちもますます勉強や部活などに励むことができるだろう。

目で見て肌で感じる 1日旅行

目をみて肌で感じる1日旅行

深い歴史を知る

2年修学旅行

9月23日(火)から4日間、本校2年生は修学旅行で沖縄県を訪れた。記者は3組所属であるため、3組の動向をレポートする。

一日目の朝、飛行機で羽田から那覇まで発つ。飛行機に乗るのが初めてという生徒も多かったようで、少し緊張気味の生徒もみられた。午前11時、飛行機は那覇空港に到着。そこから各クラス毎に貸切バスに乗り換え、2班に分かれての見学となった。

その後、シムケガマというガマを訪れた。一九四五年、ハワイから帰国した沖繩出身の、比嘉平治、比嘉平三両氏がこのガマを訪れ、市民を投降へと導いた。これにより1千人もの避難民の命が救われたという。3組一行は、懐中電灯を片手に、暗いガマの内部へと

2つのガマを訪問

私たちがまず訪れたのは、80名もの民間人が犠牲となった、読谷村にあるチビチリガマというガマだ。



新聞を掲げ、生徒に訴えかける比嘉さん

その後、平和記念公園・摩文仁の丘やひめゆりの塔など、沖縄戦の傷跡が多く残る場所を見学した。

その後、平和記念公園・摩文仁の丘やひめゆりの塔など、沖縄戦の傷跡が多く残る場所を見学した。



千羽鶴を奉納する生徒

マリンスポーツで沖繩を満喫

沖繩と言えば、やはり海である。2人で小型の舟を漕ぐシーカヤックや、シュノーケルを付け海を散策するシュノーケリングなどを体験し、生徒たちは皆大満足であった。

その他、鍾乳洞のあるおきなわワールドに行き、涼しく幻想的な空間を楽しむことができた。また、美ら海水族館では、巨大水槽を泳ぐ様々な種類の魚を見ることもできた。また、座喜



万座毛から見た沖繩の海

全国決勝弁論大会

数々の熱弁

9月20日(土)に本校主催、第62回全国高等学校決勝弁論大会が、午前9時30分から午後4時30分まで、館林市三の丸芸術ホールにて開催された。例年通り、本校1年生が、午前と午後の部に分かれ、聴衆として参加した。この大会は、本校が昭和27年に主催して以来62回を数え、全国各地から弁士が集う、歴史のある大会である。今年は、北海道や岡山など、日本各地から総勢25名が集まり、表現力60点、論旨40点の計100点で争われた。



優勝した河野陽飛君

大会は、一人目から高校生とは思えないような熱い弁論が続き、会場を圧倒した。大会の総括として、審査委員長の宮内敦夫先生は「例年通り長く練習され、素晴らしい弁論が続いた。今回は、社会や経済の問題を題材とした弁論が多かった。一方で、もうひとつ踏み込みが深かったと感じた。」と講評を語った。

来年度も、熱のこもった弁論がたくさん聞け、素晴らしい大会となることを期待したい。

優勝したのは、茨城県伊奈高校1年、河野陽飛君だ。河野君は「笑顔は世界を動かす」という題目のもと、笑顔は病と密接に関わっているということを主張した。河野君は自分が急性リンパ性白血病に冒されたこと、長期入院の際、笑顔の治療力を知り、同室の人たちを笑顔にしていたことなど、実体験を踏まえつつ、素晴らしい弁論を行った。大会終了後、河野君にインタビューを行ったところ、「1年生の自分が優勝できるなんて思っていなくて、信じられない。」と語った。意外にも今回の原稿は7月に出来上がり、あまり練習時間のないなか、夏休みから大会当日まで練習を重ねてきたそうだ。河野君は、将来、難病患者や難民の人々に笑顔を届ける職に就きたいと考えているそうだ。

邑楽館林地区からいじめ撲滅へ

10月9日(木)本校第2体育館にて「いじめ防止フォーラム」が行われた。これは、邑楽・館林地区の小学校、中学校、高校の代表児童生徒が集まり、いじめ防止について話し合うもので、昨年から行われている。今年も館林高校の生徒会、JRC部が進行役となり、JRC部のレクリエーションを通して、緊張が和らぎ、参加者同士の仲を深めていったようだった。その後、いくつかのグループに別

れ、各学校のいじめ問題について、お互いに質問したり、プリントを使って意見を交わしたりした。最後は、自分の学校のいじめ対策方法を発表し、意見を共有した。各校とも、スローガンや俳句、ポスターなどを掲示したり、いじめアンケートを行ったりして、いじめ防止に努めている。



意見交換の様子

編集後記

▼気がつけば2学期も残りところ1か月程となり、時間が経つのはあっという間だと感じる。思い返せば、一日旅行や体育祭など行事も多く、台風で休校になるなど、まさに嵐のような2か月だった。行事が多いという点もあり、今回の新聞は内容が充実していると思う。▼話は変わるが群馬県が魅力度ランキングで46位になったことが最近とても気になっている。群馬には、世界遺産の富岡製糸場や草津温泉などがあるし、先日、ゆるキャラグランプリでぐんまちゃんさんが1位になったりと、とても魅力があると思う。群馬県はもっと評価されていいのではないだろうか。(阿部智弘)

▼最近寒くなってきたと思う。11月なのに、ニュースなどで12月並の寒さと言っている。まだ11月なのでもう少し待って欲しいものだ。しかし帰り道には星が綺麗で少し嬉しい。この冬は、天体観測をしようという計画がある。▼先日、県の総文祭が行われて新聞部は写真部門でも作品を出品した。僕は新聞と同じくらい写真が好きで、写真にも力を入れていきたいと思っていたので、今回の総文祭はとて面白い勉強になった。同じ1年生なのに最優秀賞を獲得している人もいてとても刺激になった。これからは、もっと写真の勉強もしていきたい。(金子航)